

東向観音寺史料目録 (三)

東向観音寺史料調査団

はじめに

東向観音寺史料調査団では、京都市上京区に所在する観音寺（東向観音寺）の史料調査を右の通り行った。そこで、本紀要第九号・第十号に引き続き、史料目録を掲載する。なお、平成十八年に実施した第六回・第七回調査の参加者は次の通りである（所属は調査当時）。

○第六回調査（平成十八年三月三十一日～四月一日）

細川武稔（東京大学史料編纂所研究機関研究員）、大塚紀弘、竹ノ内雅人、杉山巖、小瀬玄士、村和明（以上東京大学大学院博士課程）、松本貴智（東京大学大学院研究生）、佐々木創、三島暁子（以上武蔵大学大学院博士課程）、関本悟（立正大学大学院修士課程）、秋月俊也（龍谷大学大学院修士課程）、三枝暁子（立命館大学文学部講師）

○第七回調査（平成十八年八月一日～二日）

細川武稔（東京大学史料編纂所研究機関研究員）、大塚紀弘、竹ノ内雅人、杉山巖、村和明（以上東京大学大学院博士課程）、松本貴智（東京大学史料編纂所学術研究支援員）、三浦龍昭（大正大学文学部講師）、三島暁子（武蔵大学大学院博士課程）、関屋雄一（日本大学大学院博士課程）、秋月俊也（龍谷大学大学院修士課程）、三枝暁子（立命館大学文学部講師）

調査にあたっては、観音寺住職上村貞郎様、副住職上村法玄様から種々のご配慮を賜った。厚く御礼申し上げます。

【聖教編史料紹介】

大塚紀弘・細川武稔・杉山巖

○西大寺叡尊菩薩号勅諭関係文書（6―14）

正安二年（一三〇一）、西大寺僧衆の申請を受けて、後伏見天皇から叡尊に「興正菩薩」号が勅諭された。本史料は、その際の関係文書計三通を一紙に写したもので、寛文九年（一六六九）に沙弥栄岳が書写した旨の奥書がある。これと同じ三文書が、元禄年間（一六八八―一七〇三）に編纂された『興正菩薩行実年譜』に引用されているほか、西大寺に各々の写しが所蔵されている（『西大寺叡尊伝記集成』）。本文書は誤写が多いという難点があるが、参考のために以下に翻刻を掲げる。

被院宣僞、叡尊上人者、法灯高排、戒（殊）鎮瑩、志遍在（偏在）□□之利益、德已叶菩薩之勝位、五朝以為国師、四輩（音節）□□薩埵、就中自専三衣十戒之受持、至于秘密真言之入（題）□□、皆依上人之教化、恐已黷大覺之同稱、顯其德高從山（聲力）憶彼恩、深從河海、報酬之志寤寐無聊、仍遂（行）□□基菩薩之先蹤、興正菩薩之貴号、早命有司將垂（語）□□旨、然而不相被宣下、且処觸寺中也、叡情処尊崇〔弟葉蓋渴仰乎、堅守彼菩薩之遺教、莫致此律脱力〕法之違犯者、院宣如此、仍執達如件、
正安二年七月四日 光泰奉

西大寺門徒僧衆中

謹請 菩薩号事

右、菩薩之勝号者、大士之極名也、凡廉未踐其位、聖（主體）□□授此称

□、

而今興正菩薩（意）恐陪五朝之國師、剩躡薩埵之名号、幸逢（意）□□朝之明時、忽增佛日之光輝、非啻翹先師之名譽、忝亦（語）□□遺弟之眉目、彌勳大悲闡提之誓心、奉祈中禁（禁中）萬代之寶祚、仍処請如件、遺弟等誠恐誠惶謹言、

正安二年壬七月九日

西大寺一門僧侶等

勅、傳灯大法師位叡尊者、一天四海之大導師、濁世末代之生身佛也、以濟度衆生為己任、以大悲闡提為我願、仍王（音節）□□士之婦智行也、皆約現當值遇、勇猛精進之住堅固也、誠續佛法之壽命、是以九十年之化機暗彈、四十八相之妙果遂熟、思其德、更匪真人、方今贈籠輝、宜加崇飾、故號興（正菩薩）□□、

正安二年壬七月三日

菩薩号役者次第

攝政前大政大臣從一位 藤原朝臣近衛殿 兼基
上卿正二位權大納言 〔源朝臣脱力〕三条坊門 通重
勅使正四位下權少納言 藤原朝臣 範重
手書大内記正五位下 藤原朝臣 六角為範
辨官權左少弁正四位下 藤原朝臣 光定
職事藏人兵部少輔 正五位上平朝臣 安居住惟輔
院宣奉書參（語）儀正三位下 藤原朝臣 光泰
院宣御使伊与大掾 中原朝臣 重次

外記史生 寛文第九西仲夏下旬

外記史部 應人々需書沙弥栄岳

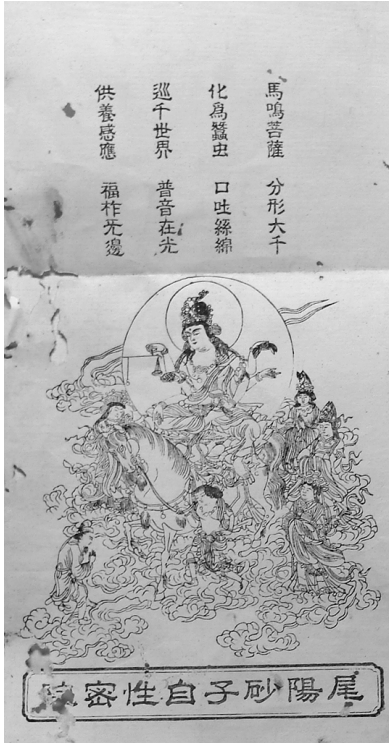
（大塚）

○馬鳴菩薩御札（6―18）

馬鳴菩薩の御札で、江戸時代のものともみられる。下部に「尾陽砂子自性密院」とあり、尾張国砂子の自性院で頒布されたことが分かる。自性院は、現在愛知県海部郡大治町砂子字千手堂にある真言宗智山派の寺院で、鎌倉円覚寺蔵の『尾張国富田莊絵図』に描かれる成願寺の寺跡を継ぐとされる。

御札に刷られた馬鳴菩薩像は、『図像抄』（十巻抄）に見える図像の系譜を引くことが明らかである（生駒哲郎「馬鳴菩薩の信仰」〔養蚕の神々―繭の里で育まれた信仰―〕安中市ふるさと学習館、二〇〇四、参照）。上部の讃は以下の通りで、『図像抄』に類似の讃が見出せる。

馬鳴菩薩 分形大千
化為蠶虫 口吐絲綿
巡千世界 普音在光
供養感應 福祚無邊



○泉涌寺戒牒（6―27・34・39）

戒牒は、沙弥に具足戒を受戒する際に作成され、受戒の証明書として機能した（松尾剛次『新版鎌倉新仏教の成立』吉川弘文館、一九九八）。三通の戒牒は、いずれも江戸中期の泉涌寺における受戒の戒牒である。年代順に、①寛永元年（一六二四）の勢秀戒牒（34）、②寛文十二年（一六七二）の宏源戒牒（39）、③元禄十七年（一七〇四）の信啓戒牒（27）となる。以上三僧は観音寺の住持で、宏源・信啓は師弟関係にあった（0―17）。観音寺は泉涌寺の末寺であったため、本寺の泉涌寺で受戒したのである。

①の冒頭に列挙された十人の僧侶は、受戒に際して招請された三師七証で、泉涌寺住持の照珍が戒和上を勤めたこと、泉涌寺僧のほか、いずれも山城国にあった唐招提寺末の法園寺、遍照心院、西大寺末の大乗院、速成就院から律師が招請されたことが分かる。次に、②③では、三師七証が半分の五人に減っている。②では、泉涌寺住持宣亮のほか、大和国の新禪院、西大寺、喜光寺、唐招提寺から、③では、泉涌寺の前堂頭、前住持のほか、泉涌寺末の誠心院から律師が招請されている。以上の点から、泉涌寺における受戒制の様相および変遷が垣間見える。

① 6―34
奉請
泉涌寺大徳長老照珍律師「計」
奉請

（大塚）

法園寺大德長照律師「訃」

奉請

大乘院大德実譽律師「訃」

奉請

遍昭照心院大德清重律師「訃」

奉請

速成就院大德高栄律師「訃」

奉請

泉涌寺大德秀長律師「訃」

奉請

泉涌寺大德□宥律師「訃」

奉請

泉涌寺大德弘賢律師「訃」

奉請

泉涌寺大德元利律師「訃」

奉請

泉涌寺大德松旭律師「訃」

沙弥「勢秀」稽首和南大德足下

窃以三学殊途、必会通於漏尽、五乘広運、資戒足以為先、是以表無表戒、務衆行之津梁、願無願心、祈七支之勝躅、但「勢秀」宿因多幸、得筵法門、未登清禁、夙夜刺悚、今契寛永元年十一月廿二日於泉涌寺戒場受具足戒、伏願大德慈悲拔濟、小識和南、

寛永元〔甲子〕年十一月廿二日沙弥「勢秀」謹疏

和上

伝燈大宗師 照珍

戒壇堂達

伝燈大律師 印照

② 6 | 39

奉請

泉涌寺大德長老宣亮宗師

「訃」

奉請

新禪院大德浄慶律師「訃」

奉請

西大寺大德高光律師「訃」

奉請

喜光寺大德覚賢律師「訃」

奉請

招提寺大德義海律師「訃」

「宏源」稽首和南大德足下

窃以三学殊途、必会通於漏尽、五乘広運、資戒足以為先、是以表無表戒、務衆行之津梁、願無願心、祈七支之勝躅、但「宏源」宿因多幸、得筵法門、未登清禁、夙夜刺悚、今契今月今日於泉涌寺戒場受具足戒、伏願大德慈悲拔濟、小識和南、

寛文十二壬子歳九月十三 日「宏源」謹白

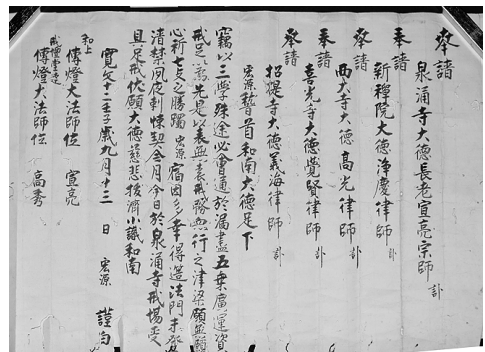
和上

伝燈大法師位 宣亮

戒壇堂達

伝燈大法師位 高秀

③ 6 | 27



奉請

前泉涌寺堂頭大德整峰宗師「訃」

奉請

前泉涌寺大德長老卓岩宗師「訃」

奉請

前泉涌寺大德長老虎溪宗師「訃」

奉請

前泉涌寺大德長老春瑞宗師「訃」

奉請

誠心院大德珉岩律師「訃」

信敬稽首和南大德足下

窃以三学殊途、必会通於漏尽、五乘広運、資戒足以為先、是以表無表戒、務衆行之津梁、願無願心、祈七支之勝躡、但〈信啓〉宿因多幸、得造法門、未登清禁、夙夜刺悚、今契今月今日於泉涌寺戒場受具足戒、伏願大德慈悲拔濟、小識和南、
元禄十七年甲申年二月十七日 信啓謹疏

和上 伝燈大宗師 整峰

戒壇堂達

伝燈大律師 照山

(大塚)

○聖教箱目録 無量寿院 (6131)

醍醐寺無量寿院の聖教目録の写本。すでに紹介されているものとして、元文四年(一七三九)作成の目録(小原仁氏による翻刻、『醍醐

寺文化財研究所研究紀要」一五号、一九九六年)があるが、本目録はそれに先行するもので、寛文七年(一六六七)作成、享保五年(一七二〇)書写。二つの目録を比較すると、目録の冊数は寛文目録が一に對し元文目録が三、聖教箱の数は寛文目録が四十三に對し元文目録は五十となっており、聖教が増加したことがうかがえる。ともに虫干しの際に作成されたものだが、各箱の内容は大幅に入れ替わっている。虫干しに際しその時々の方針に基づいて聖教の整理が行われ、同時に目録が作成されたと考えられる。

(細川)

○齋別受八戒作法 (6140)

在家衆に対する八戒授戒の作法を記した作法書である。本書は寛文十一年(一六七二)等の版本が知られるのみで、観音寺本は奥書がないものの、江戸時代の写本として貴重である。ただ、版本を底本とした可能性もあり、さらなる検討が必要である。

内題に続いて「興正菩薩造」とあり、『興正菩薩行実年譜』に叡尊の著作として挙げられている「別受八戒作法」を指すとみてよからう(『西大寺叡尊伝記集成』)。

(大塚)

○室町幕府歴代將軍忌日 (614612)

初代尊氏、二代義詮、三代義満、四代義持、六代義教、七代義勝、八代義政、九代義尚、義規、十一代義澄、五代義量(紙背)の順で、院号、死没年月日、年齢等を記す。義量の没年を永享十二年とするなど(実際は応永三十二年)、いくつか誤りも見受けられる。天和三年

(一六八三)の、昌誓誓状と同一の包紙に包まれるが、内容に関連性はない。東向観音寺は尊氏が伽藍を整備したとされるなど、足利氏との関係が深い。あるいは位牌の銘を写したもののか。(細川)

○涅槃講式(15-1・6・9)

15函は、講式を中心とする十二巻の卷子本を取めたものである。十二巻のうち六巻の卷子本には奥書が記されており(目録参照)、これらの書写年代を考える手がかりとなる。それらによると、この函に収められている一連の卷子本は、凡そ二段階にわたって書写されたものと考えられる。まず寛文・延宝年間(一六六一—一六八〇)に観音寺住持の宏源により書写されたもので、この函に収められた史料の大部分を占めている。これらに、享保年間に観音寺住持であった源秀の書写したものの若干を加えたものが一連の卷子本の性格といえるだろう。

全十二巻の卷子本のうちに、三巻の涅槃講式がある。このうち15-6は、寛文六年に宏源が書写したもので、源信の著作とされる涅槃講式(『恵心僧都全集』五)の系統に属する写本である。一方15-9は、明恵の著作にかかる涅槃講式(『大正新修大藏経』八四)の写本である。この本は奥書を欠くものの、江戸中期の観音寺において様々な系統の涅槃講式が書写蒐集されていたことが知られ、またこれらには朱あるいは墨により訓点や節博士が記されていることから実際の儀式に使用されたものと考えられ、興味深い。(杉山)

○天神講私記(15-7)

15-7は、「天神講私記」の内題をもつ「天神講式」の写本である。

書写奥書を欠くのが惜しまれるが、15函に収められている他の卷子本と同様、江戸中期の書写にかかるものと考えてよい。

天神講式は、一段本、三段本、さらに菅原為長の撰と伝えられる五段本の三つの系統の諸本があり、一段本と五段本は『神道大系』神社篇十一に翻刻されている。

観音寺に伝来したこの写本は、五段本の系統に属するもので、同系統の古写本としては建武四年(一三三七)の書写にかかる醍醐寺三宝院本、応永十四年(一四〇七)に書写された東寺観智院本などがある。(杉山)

○妙法蓮華経 観世音菩薩普門品(27-1)

27-1は、紺紙に金銀泥で書写された妙法蓮華経の第二十五観世音菩薩普門品で、折本装に仕立てられたものである。この経巻が書写された事情については、奥書によりおよそのことを知ることができる。

すなわち、京に住む常祐の父義密居士は、妙法蓮華経の観世音菩薩普門品を三十三卷金字で書写し、洛陽三十三観音に一巻ずつ奉納するという願を立てた。しかし、数巻を書き終えたところで病に罹り、願を果たせないまま死去してしまった。それから十数年が経ち、義密の息子の常祐は、父親の遺志を継ぎ、三十三巻の観世音菩薩普門品を自ら書写し、部分的には周囲の人に書写させて書き終え、正徳元年七月十七日に各所に奉納したという。

今後、洛陽三十三所に数えられる他の諸寺の調査により、本経のツレとなるものの出現が俟たれるところである。(杉山)

なお、以下に解説を掲げる三点は、本稿に目録を掲載している四つの函に収められているものではないが、その史料的价值に鑑みてここに紹介する。このうち、「開山無人和尚行業記」(0-21)については、本紀要第九号に掲載の「東向観音寺史料目録(一)」を参照されたい。また、「無人如導宗師像」および「無人如導宗師書状」は、寺宝として別置されている。

○開山無人和尚行業記(0-21) ※目録(一)所載

本書は観音寺中興開山の「無人和尚」如導の伝記で、その没後四十五年の応永九年(一四〇二)、如導の門弟である「北野観音寺長老蓮忍房」慧澄の求めにより、東福寺前住(海蔵院)の在先希讓が著述した。希讓は尾張真福寺、建仁寺に学び、三聖寺、普門寺、東福寺の住持を歴任し、応永十年に示寂した聖一派の禅僧である。

末尾に引用されている建仁寺如是院の此山妙在の讚は、現在観音寺に所蔵される如導肖像画の上部に加えられた賛文の転記である。妙在は貞和元年(一三四五)に帰朝した入元僧で、万寿寺、建仁寺、天竜寺、円覚寺の住持を歴任し、永和三年(一三七七)に示寂した仏光派の禅僧である。

本書の写本は、神宮文庫にも伝わっており、『群書解題』によれば、江戸後期の写しが内閣文庫・宮内庁書陵部・静嘉堂文庫などに所蔵されているという。刊本は、『統群書類従』九上および『大日本史料』六編之二十一(無人和尚行業記)に収録されており、多少の異同がある。観音寺には、卷子本以外に冊子本も伝わっているが、いずれも『統群書類従』と同文である。なお、如導の事蹟については、拙稿「中世都市京都の律家」(『寺院史研究』一〇、二〇〇六年)参照。

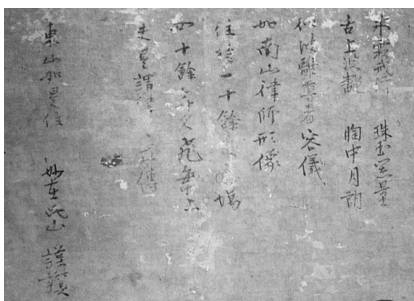
観音寺では、中興開山無人如導宗師六百五十年御遠忌を記念して、平成十八年五月十八日から二十八日まで寺宝展が開催された。以下、宗師ゆかりの宝物二点を紹介する。

○無人如導宗師像

観音寺を律院として再興した如導宗師の肖像画。紙本着色。縦一〇六・九センチメートル、横五三・三センチメートル。香衣の上に香袈裟を円環で吊り、右手に扨子を執り、法被を掛けた椅子に坐す。宗師の没後間もない南北朝期の作と見られる。像上の賛文は、此山妙在の筆で、『開山無人和尚行業記』(0-21)の末尾に引用がある。

〔賛文翻刻〕

水霜戒行 珠玉器量
舌上波翻 胸中月朗
似波離尊者容儀
如南山律師形像
住持一十餘處□場
四十餘年名飛海上
天是謂律師□正傳
東山如是住 妙在此山 謹讚



(大塚)

(大塚)



○無人如導宗師書状

見蓮（＝見蓮房如導）が蓮禪房に宛てて書いた書状。蓮禪房の希望通り、熊一丸が西保・得一両村の保司職に補任されたことを伝えたものである。両村は徳大寺家領の越中国般若野庄内にあったと推測される。また、補任状を發した「寺家」は、徳大寺家が管轄した京都の永円寺または本願寺（如導宗師の開基）とみられる。

〔翻刻〕

西保・得一両村保司職事、就御口入被仰付熊一丸候、仍徳

大寺家御教書」并寺家補任状等如_レ此、」子細見_レ状候歟、年貢以下
無_レ懈怠可_レ致_レ其沙汰之由可_レ被_レ仰候也、」恐々謹言、

六月五日 見蓮（花押）

蓮禪御房

（大塚）

【聖教編 6・15・27・28 函史料目録凡例】

- ・番号は、函から取り出した順とした。包紙等で一括された史料については同一番号を付し、枝番で分類した。
- ・名称は、基本的に内題を採用した。外題・尾題等を参照し、調査団の判断で付けた場合は、丸括弧で括った。
- ・成立は、すべて江戸時代と判断し、特に欄を設けなかった。
- ・品質は、摘要欄に明記のないものはすべて紙本墨書である。
- ・法量は、縦×横、単位はセンチメートル。冊子本、折本は表紙を、卷子本、続紙で全体の測定が困難なものは最も平均的な紙を測定し、それが第何紙かを丸括弧で括って示した。
- ・紙数は、冊子本については丁数を示した。共紙表紙の場合は、表紙も紙数に含めた。折本は折山の数を示した。
- ・奥書欄は、意味上の区切りによる改行を鍵括弧で示し、別件の場合は改行して表記した。
- ・外題欄には、題名以外の注記も含めて記した。
- ・朱筆は二重鍵括弧で括り、虫損等で判読できなかった箇所は、□で示した。
- ・本目録の入力は、大塚紀弘・細川武稔（6 函）、杉山巖（15・27・28 函）が行った。

6 図史料目録

番	枝	名 称	装 丁	法 量	紙数	摘 要	奥 書	外 題
1		於他化自在天王宮大摩 尼殿理趣能説曼荼羅之 図	切紙	24.7×34.5	1			
2		(種子曼荼羅)	豎紙	40.2×27.8	1			
3		(理趣会) 金剛薩唾念 誦私記	折本装	16.7×12.0	24	紙背に某聖教を書写 (表と同筆)		
4		中臣成	折本装	16.3×8.2	15			
5		法華職法	折本装	15.4×9.4	72	補注(朱書)あり	奉為桜町院令附属于泉涌寺者也」正二位源重熙	
6		(菩薩戒本宗要)	折本装	34.3×9.8	20	紙本墨版、尾欠、詳細 な注記(墨書)あり		
7		在家人道結縁剃髮法略 式	折本装	24.1×12.3	30	包紙「在家結縁剃髮」 日文方印「南山正定」 「釈氏玄玄」、朱文方印 「宏源」、紙背文書あり	右「在家結縁剃髮儀」自古在塵裏而剃頭髮者奉世称 俗沙弥蓋夫剃除鬢髮故云沙弥意同近住故立俗名或五 戒及十戒曾受持者而稀故不殘俗号歟所以行其剃髮無 別法式今時多伝真沙弥法甚以為不可也矣故今不獲已 編此略式以輔時用雖然是為常式非伝于世後人当隨時 折中随互用舍則吾願満足于此耳」時延宝丁巳秋日 釈 宏源識	在家結縁仏道剃髮略式一卷 在家結縁剃髮儀」宏源 北基上林苑觀世音律寺公用
8		四分宗分亡五衆物儀一 卷	折本装	21.0×11.5	31	7と同じ包紙で一括	延宝丙辰八月十日於壬生西坊為高元沙弥行分物之法 即補時用之一記是別坊行事略如斯耳自古雖有行式不 合其鈔文故記之了」釈 玄々叟 宏源 識	
9		啓白前風誦文事	豎紙	38.9×52.8	1		明暦三丁酉年三月初一日衆等(啓白)	
10		講定「伝法灌頂職衆事	豎紙	39.8×52.9	1		貞享二年九月 日行事信啓	
11		(泉涌寺金光明機法疏)	豎紙	38.5×52.9	1		寛文九年正月朔一日日本国泉涌寺現前諸衆等謹疏	
12		(風誦文)	豎紙	36.3×50.3	1			
13		三弁法施 毎晨 甲子	豎紙	33.8×42.7	1	端裏書「三弁法施 毎 晨 甲子」		
14		(西大寺寂尊菩薩号勅 許関係文書)	縹紙	37.6×96.9	1	3通の文書を2紙の縹 紙に写す		

番	枝	名 称	装 丁	法 量	紙数	摘 要	奥 書	外 題
15	1	(唯識論述記開書第一号)	大和綴	12.4×17.1	25			大能化佐伯大和尚 明治十七年六月二日開演 唯識論述記開書」第壹号 所化智 範
15	2	(唯識論述記開書第二号)	大和綴	12.4×17.3	39			唯識論述記開書」第二号 所化智 範
15	3	(唯識論述記開書第三号)	大和綴	12.4×17.1	39			大能化」唯識論述記開書」第三号 所化智 範
15	4	(唯識論述記開書第四号)	大和綴	12.4×17.1	40			明治十七年」十一月廿八日」唯識 述記〈開書〉」第四号 所化智 範
16	1	(随流伝授聽書 第一号)	大和綴	12.4×16.9	46			明治十九年四月二日於京都東山 泉涌寺道場第貳重」第初重應摩ヨ リ初ム初重加ヘタリ」受者行般」 随流伝授開書」大阿闍梨地雅大僧 正」【第壹号】
16	2	(随流伝授聽書 第三号上)	大和綴	12.3×17.0	44			随一御流 洛葉沙門」伝授開書」 第三号上 受者真明
16	3	(随流伝授開書)	大和綴	12.3×17.3	26			明治廿一年三月十三日午後」伝授 開書」地藏御縁」受者」真明
16	4	(随流伝授開書)	大和綴	12.3×17.1	8			伝授開書
17		(某開書)	大和綴	12.1×17.0	14	首欠		明治九年十一月」二日
18		(馬鳴菩薩御札)	切紙	24.4×13.1	1	「尾陽砂子自性密院」 とあり		
19		(真言陀羅尼集)	折本装	14.5×9.5	3	紙本墨版、前後欠		
20		正念誦	折本装	16.8×12.0	8	尾欠		
21		(某經典斷簡)	折本装	21.4×6.6	1	紙本墨版、断簡		
22		(某聖教)	粘葉装	17.1×16.4	24	包紙あり、首尾欠、補 注(朱筆)あり		
23		(一条殿新建祠堂移遷 敬白文)	折本装	14.1×12.1	13		一条殿御仏殿御座」□話在之	

番	枝	名 称	装 丁	法 量	紙数	摘 要	奥 書	外 題
24		大乘金剛不空真集三摩耶経般若波羅蜜多理趣品	卷子装	27.0×35.0(2)	14			般若理趣経
25		南山一字宗妙	竖紙	30.9×44.2	1			
26	1	(秘密伝法准頂印信 紹文)	竖紙	32.0×39.0	1	首次、養遍→政応、寛永2年2月10日		
26	2	(秘密伝法准頂印信 印明)	竖紙	32.1×44.5	1	養遍→政応		
26	3	(秘密伝法准頂印信 血脈)	竖紙	32.0×40.0	1	首次、養遍→政応		
27		(泉涌寺戒牒)	純紙	37.4×101.4	2	雲紙、元禄17年2月17日	沙弥信啓謹疏」和上伝燈大宗師整峰」戒壇堂伝燈大律師照山	
28		(祖師諷経回向)	竖紙	36.3×49.2	1			祖師諷経回向
29		(某表白文)	竖紙	35.2×50.7	1			
30		法華入講	純紙	29.3×42.4(2)	3	節博士(宋)、声点(朱)		
31		聖教箱日録 無量寿院	袋綴装	30.9×23.7	35	「寛文七(丁未)年六月虫弘之時清書之也」とあり	右当院聖教日録者寛文七(丁未)総六月虫弘之序誌焉庶幾末業每年虫弘無懈念愆是等之聖教猶眼目狼不可他借者歟仍粗記之而已」松門末業公円御判」右聖教日録者師主権僧正徒仰此以御本令書写畢」享保第五(庚子)曆十二月廿四日權律師澄翁	松橋聖教日録之写
32		遷歴次第	折紙	33.1×44.4	1			
33		(某表白文)	竖紙	38.9×52.5	1	仮名(墨)、句切点(朱)		
34		(泉涌寺戒牒)	純紙	36.1×167.7	2	泉涌寺・法園寺・大乘院・遍昭心院・速成就院の僧を奉請、寛永元年11月22日	沙弥勢秀謹疏」和上伝燈大法師位照珍」戒壇堂伝燈大法師位印照	
35	1	(隔)	竖紙	24.3×33.2	1	包紙上書「国師之賢宏源所写也 二枚」		
35	2	(隔)	竖紙	24.3×33.2	1	同上		

番	枝	名称	装丁	法量	紙数	摘要	奥書	外題
37		(開山宿忌回向)	豎紙	36.3×49.4	1	「開山大興正法国師」とあり		開山宿忌回向
38		諸徳再拜	豎紙	32.3×79.5	1	節博士(墨)		
39		(泉涌寺戒牒)	豎紙	38.0×52.7	1	泉涌寺・新禪院・西大寺・喜光寺・招提寺の僧を奉請、寛文12年9月13日	宏源謹白「和上伝燈大法師位宣亮」戒壇堂達伝燈大法師位高秀	
40		斎別受人戒作法	打本装	16.6×12.1	40	「興正菩薩造」とあり		
41		一山大事	打本装	15.4×11.8	12			諸大事」空泉
42		隨身作法	粘葉装	16.4×15.7	4			十四 玄龍」「十二」常喜院」隠所作法 三宝院 薄」
43		(伝法灌頂大事口決)	縮紙	29.6×46.0(2)	6		寛元二年(甲辰)六月中旬之比有臥病惱之床為長位大寺記之是自流之源底師伝之肝心也伝持之賢侶惜守莫及外見人皆我慢也定致嘲哂喚」金剛仏子勝因于時年七十九(在御判)」今之抄記者師資相伝シテ此定ノ口決受ケラム人ノ為脱亡ノ也然ルニ若得書レハトテ未伝受之人抑ヘテ非可用之必可有越三昧耶之過事也努力々々」又器量之仁求法之志深故以此書令授与印可阿闍梨了 金剛仏子勝因(在御判)」文永十年(癸酉)十一月一日賜師主御相伝之行願房阿闍梨御房(勝因)御自筆本令書写之了」金剛仏子寛円」已上大事口決等依為法器之仁授与寛円大法師已畢仍文永十二年(乙亥)正月廿二日為後代判行加之」金剛仏子寛円(在御判)	
44		(文治五年後七日御修法記)	縮紙	30.3×50.1(2)	5			
45		(宏源巻数案)	豎紙	30.7×45.7	1	「十一面観音御修法所」とあり、寛文4年9月18日	阿闍梨宏源	
46	1	(昌誓誓状)	豎紙	31.0×44.2	1	包紙上書「昌誓誓状」、天和3年9月27日	昌誓(花押) →信啓大阿闍梨	
46	2	(室町幕府歴代將軍忌日)	豎紙	24.2×33.3	1	同上		

番	枝	名称	装丁	法量	紙数	摘要	奥書	外題
47		(泉涌寺現前諸衆等疏)	豎紙	30.4×42.7	1	元文4年正月1日	日本国泉涌寺現前諸衆等謹疏	
48		(白衣観音堂三十三観音縁起十代)	綿紙	24.7×77.2(2)	3		宝永第三龍舎丙戌、沙門、書於北野観世音律寺方丈	
49		弘化三年伊勢内宮仮名曆	綿紙	29.2×31.8(2)	5	紙本墨版	弘化二年出	
50		(印明)	豎紙	28.8×40.2	1	「第三重塔印」とあり		
51	1	宇賀神	豎紙	48.0×30.9	1	図像		
51	2	田夫愛染像	豎紙	47.4×30.8	1	紙本著色		
51	3	田夫愛染之像	豎紙	47.0×30.9	1	紙本著色		
52		(十一面観音供修法交名)	豎紙	33.7×51.0	1	大増供=宏源大阿闍梨		
53		(老師大和尚三周忌諸入用附込留)	横帳	34.2×12.8	17			文化十三年子八月「老師大和尚三周忌諸入込留」東向観音寺兼任思欵
54		(僧鑑在世中堂舎等手当銀帳)	横帳	33.6×12.0	15			為老師大和尚在世中諸加持次余光報恩堂舎再建并騰具塔前石灯笼花瓶等造立手当銀雖少財必不許他用者也」文化十二年亥九月 観音寺兼任思欵
55		(僧鑑大和尚十三回雜記)	横帳	34.0×12.2	13			文政九戌年「僧鑑大和尚十三回雜記」八月十八日 観音寺
56		(十一面観音講式)	綿紙	25.9×92.8	5	紙背に和歌		
57	1	(諸経抜書)	豎紙	22.0×28.3	1	包紙(57-1~19を包む)、上書「教授之用」		
57	2	(真如法親王行実)	堅切紙	31.6×25.7	1		願慶撰之	
57	3	三宝礼文	豎紙	26.3×36.6	1			
57	4	聞書	豎紙	26.3×38.8	1	「惠果云」とあり		
57	5	伝法灌頂人々曆名	豎紙	31.3×44.0	1	「後夜受胎藏界」とあり		

番	枝	名称	装丁	法量	紙数	摘要	奥書	外題
57	6	伝法灌頂人々曆名	竖紙	31.2×44.1	1	「後夜受胎藏界」とあり		
57	7	伝法灌頂人々曆名	竖紙	28.8×47.6	1	「於北野觀音律寺初夜受金剛界」、「後夜受胎藏界」とあり、元禄12年10月8日		
57	8	伝法灌頂人々曆名	竖紙	31.3×44.1	1	「後夜受胎藏界」とあり		
57	9	(空海伝記抄)	竖紙	26.3×38.1	1	惠果との關係を示す史料を引用		
57	10	伝法灌頂人々曆名	竖紙	31.2×44.7	1	「於北野觀音律寺初夜受金剛界」とあり、延宝8年10月14日		
57	11	(梵網会誦論文)	竖紙	30.8×45.8	1	端真書「梵網会誦論文」、寛文10年3月1日		
57	12	伝法灌頂人々曆名	竖紙	31.3×44.5	1	「於北野觀音律寺初夜受金剛界」とあり、延宝8年10月15日		
57	13	真性頌	竖切紙	26.0×21.0	1			
57	14	(東寺長者御教書字)	竖紙	25.3×33.0(1)、 25.3×32.6(2)	2	寛文9年3月25日	岳西院権僧正判→山城国真言諸寺院中	
57	15	伝法灌頂人々曆名	縦紙	29.8×86.8	2	「於北野觀音律寺初夜受金剛界」、「後夜受胎藏界」とあり、寛文11年3月27日		
57	16	伝法灌頂人々曆名	竖紙	31.0×44.0	1	「於北野觀音律寺初夜受金剛界」とあり、延宝8年10月14日		

番	枝	名稱	装丁	法量	紙數	摘要	奥書	外題
57	17	伝法灌頂人々曆名	純紙	30.3×86.2	2	「於北野觀音律寺初夜受金剛界」、「後夜受胎藏界」とあり、寛文11年3月26日		
57	18	伝法灌頂人々曆名	豎紙	31.2×44.0	1	「於北野觀音律寺初夜受金剛界」とあり、延宝8年10月15日		
57	19	祈誓弘仁天皇御匠表	豎紙	26.2×36.7	1		弘仁七年十月十四日沙門空海上表	

15函史料目録

番	枝	名稱	装丁	法量	紙數	摘要	奥書	外題
1		涅槃講式(日中)	卷子装	29.3×49.2(2)	12			
2		舍利講式	卷子装	29.3×49.5(2)	12		比丘文英之 延宝辛酉(九年)三月五日 寓洛東 南嶺子」講授 与天□師了	
3		初重三心四修具一行三昧事	純紙	29.4×47.8(2)	12			五重 宏源
4		舍利講式	卷子装	30.2×48.2(2)	17		寛文丙午(六年)九月八日、寺役之次、慈雲禪人、 繕写之了、」城北 野般 宏源(生/四十一)	舍利講式
5		大聖敬喜天式	純紙	29.3×48.0(2)	6		享保十九甲寅年八月十一日、借用之清和權僧正、而 於妙雲堂書寫了、」北野觀音寺住持 小比丘源秀 誌	
6		涅槃講式(日中)	卷子装	30.2×48.2(2)	17		寛文六丙午二月十五日、當役之次、使慈雲禪人書寫 之了、」京北上□苑觀音律寺住持比丘宏源(生四 十一、□十二)	涅槃硬式
7		天神講私記	純紙	33.4×49.9(2)	11			
8		(相應私抄)	卷子装	26.8×40.0(2)	6			相應私抄第四
9		涅槃講式	卷子装	32.4×49.8(2)	21			
10		明神講式	卷子装	29.5×43.6(2)	不明			明神講式
11		六道講式	卷子装	30.2×48.3(2)	15			六道講式
12		啓請十六大阿羅漢獻供儀	純紙	24.1×31.5(2)	5		延寶丁巳秋日 釋 宏源識	

27函史料目録

番	枝	名 称	装 丁	法 量	紙数	摘 要	奥 書	外 題
1		相保隱通鈔	袋綴装 (大和綴)	26.6×19.2		全九冊の内、二～九の 八冊のみ存す		相保隱通鈔(表紙題簽、但し卷二 は題簽欠)
2		(四分律行事鈔資持 記)	袋綴装 (大和綴)	27.5×19.2		全四十二冊 卷首に朱 印二顆		四分律行事鈔資持記

28函史料目録

番	枝	名 称	装 丁	法 量	紙数	摘 要	奥 書	外 題
1		(妙法蓮華經觀世音普 薩普門品)	折本装	29.3×9.3		紺紙金銀泥、箱書「佛 名經 上林苑」、28- 1～3-3を収む	先考養密居士、尊號善願、書金字尊「門品三十三 卷、以奉納洛陽三十三所普」陀大土堂、終書若干卷、 不幸罹病、不成」其願而佚、尔後因□歷十餘歲、於 慈思」繼其志、自書、又使人書、其願已了、以納」 各處、伏冀、依此功典、先考及一切群生共」登涅槃 覺岸、」于時正德元年辛卯初秋十七日」洛下賢岳齊 常祐謹誌	
2	1	現在賢劫千佛名經	卷子装	29.0×48.4(2)	24	全三卷のうち二卷のみ 存し、「過去莊嚴劫千 佛名經」を欠く		
2	2	未來星宿劫千佛名經	卷子装	29.1×48.5(2)	26	全三卷のうち二卷のみ 存し、「過去莊嚴劫千 佛名經」を欠く		
3	1	過去莊嚴劫千佛名經卷 上	折本装	28.0×9.5	67	版本		過去莊嚴劫千佛名經
3	2	現在賢劫千佛名經卷中	折本装	28.0×9.5	67	版本		現在賢劫千佛名經
3	3	未來星宿劫千佛名經卷 下	折本装	28.0×9.7	69	版本		未來星宿劫千佛名經

【近世文書編概要】

ここからは近世以降の文書群について紹介したい。近世文書の入った箱は函1・4・8・9・11・17・18・21・24・31・32・33であり、前号までの紀要で函1・4・8・9・11・17・18・21の目録を既に収録した。これまでの調査では函33のナンバリング作業を終了、同函の途中まで目録作成を進行させた。今回は函24・31・32の目録を掲載する。以下、各函の概要を述べたい。

《函24》

やや年代の下る史料が混在しているが、主として十七世紀における寺の境内・屋敷地や領地にかかわる文書群である。点数は四五点と少ないものの、非常に特色のある内容となっている。

寺領のあった西院村の年貢収納や石高に関する史料のほか(24―19―21、27)、將軍代替りにともなう黒印状取得のため、江戸へ下向する際の次第を記したものの(24―23)や、寺に面した御土居の竹の子番を勤める史料(24―29)という変わったものも見受けられるが、この函で注目されるのは北野社僧との関係を示す一連の史料であろう(24―13)。この史料では寛永九(一六三二)年、北野社の社僧である能富が、観音寺に隣接する屋敷地を観音寺へ永代寄進する旨の請状(24―13―2―1)が含まれており、門前町の人足役をめぐり松梅院との間で争われた訴訟の史料と一括して保管されていたことから、当時の境内地経営と北野社との関係を考える上で重要な史料となっている。

このほか、寛永から正保年中にかけての庵室の譲渡、僧侶の財産処分にかかわる一連の史料(24―8)があり、近世初期における僧侶の所有とそれに関与する人的関係を考える上で興味深い。

《函31》

この函では書簡が多く残されているほか、作事関係の史料が目立っている。書簡は年代の特定できるものが少ないが近世後半期のもつみられ、一条家(31―39)や新善光寺(31―66・70・91)およびその関係者(31―7)、御師(31―79)、京都代官小堀氏(31―77・89)などとの間でやりとりしており、当該期における観音寺の社会的な関係をうかがい知ることが出来る。また作事願および人足賃・材料費の書上げや境内指図など、作事関係の史料も多いが、時期的に近世後期から明治にかけての史料が大半を占める。

このほか天正十九年(一五九一)の寺領判物写(31―19)や、綱吉・吉宗の分を除く黒印状・朱印状の写もこの函に納められていた(31―31―36)。ただこの函には、朱印替えを各末寺に触れた触書(31―15)や、朱印状紛失に関する史料(31―44)もあり、類似の史料が各函に散見されることから、寺領関係の史料は元来一括して保管していたところ次第に状態が崩れ、史料を劣化した長持から段ボール箱へ移し変える際、それぞれの箱へと分散したのであろう。

《函32》

この函は函21・24と同様聖教を含んでおり、文書の点数は比較的少ない。その内訳は近代以降のものと、絵図面を含む作事史料にほぼ大別できる。境内地を描いた絵図面の中には、元和六年(一六二〇)の境内・門前町および門前住人の名前を記した絵図面(32―15―6―8)のほか、天正十一年(一五八三)に門前町屋を開発したという注記のある万治三年(一六六九)の境内・門前町絵図面(32―15―11)が残されており、寺の運営と境内地の推移、西京一体の開発などを考

える上で重要な史料である。

ほかに、当時の什宝や葵紋付の寺宝を書上げたもの（32―36・46）や、一条家との関係をしめす史料が見受けられる（32―37・45）。特に観音寺の開帳中、一条家から借り出した衣冠などの宝物品目書上げ（32―40）もあり、当時における一条家との関係の深さがうかがえる。

以上、函三点分の概要について取り上げた。近世における東向観音寺および寺を取り巻く社会的な関係を知る上で基本的な事象を含むものや、興味深い史料を確認することが出来た。残る函33では、これまでの調査で確認した史料と類似したものをいくつか見ることが出来ることから、次の機会に史料紹介を含めた近世期の状況を概要としてまとめられるよう、今後も努力していきたい。

（竹ノ内雅人）

【函24】

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
24	1	差上テ申一札之事	(参針忌日の書付け、虚説有之につき)	元禄2年5月	—	—	状	1	
24	2	客殿御普請入用覚		寛政7年12月	大江半右衛門 八木村 宇都宮縫殿	—	状	1	折紙
24	3	[包紙]		—	御門前年寄 善右衛門 ほか3名	—	状	1	包紙のみ
24	4	覚	「一、町入屋作…」(屋敷造作などの触書請状)	寛文8年3月27日	—	観音寺御内 正順坊	状	1	
24	5	[書簡]	「一、昨日者御出…」(後深事伝兵衛進わずにつき)	5月11日	—	—	綴	1	
24	6	[書簡]	「一筆申入候けふも…」(東福寺にて法事につき)	—	ひかひ	信次右衛門	状	1	折紙
24	7	判鑑		寛文9年極月	観音寺役者 知折	—	木札	1	包紙あり。「西木生村阿弥陀寺住持 節成」
24	8-1	[包紙] 観音町明王院 議状一通		—	—	—	状	1	
24	8-2	永代譲渡申渡之事		寛永18年極月21日	師匠 寛乗坊・本行坊	俊寛坊	状	1	慶安元年7月21日観音寺による写
24	8-3	案文	(明王院覚後逝去之刻、家財進退につき請状)	慶安元年7月21日	—	大坂 百足屋彦右衛門 尉・北野観音寺	状	1	
24	8-4		(政恰死去により寺守仰せ付けらるるにつき)	正保2年3月7日	明王院覚後・中性坊 清	観音寺ほか9名	状	1	ひも付き
24	9-1	門前之儀ニ付松梅院出入		—	上林苑観音寺	—	状	1	
24	9-2	明和八年卯六月七日門前丸屋半右衛門参而松梅院役人より口書		明和8年6月	門前	—	状	1	
24	9-3	去ル六月十六日松梅院家来西田善右衛門方より書状差越候趣		—	—	—	状	1	
24	9-4		[右門前人役之儀…]	明暦2年4月	寛源	—	状	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘要	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
24	10	原表題	「明治十九年七月…」(明治期 覚書・領収書類一括)	—	—	—	—	—	—
24	11	覚	(御家の感状・褒美など無之に つき)	天和4年2月24日	北野観音寺役者患寂・ 年寄長左衛門	五十嵐四郎兵衛	状	1	端裏「子ノ二月廿四日 雜式方江招遣し候断書 写」
24	12	覚	(西院村内の寺領に関する諸人 用覚)	—	—	—	—	1	—
24	13-0	[包紙・くくりひも]	「能富井松梅院」	—	—	—	—	2	—
24	13-1-0	[包紙]	「松梅院より出書付」	享保16年6月	—	—	状	1	—
24	13-1-1	[書簡]	「昨十七日東向観音寺法会ニ付 …」(門前西側の挑灯出入につ き)	亥6月18日	松梅院役人稲波左京	公事方御役人中	状	1	写
24	13-2-1		「其方屋敷と観音寺…」(屋敷地 永代寄進につき請状)	寛永9年4月11日	観音寺 勢秀	能富坊	状	1	2-2に貼付
24	13-2-2		「我等屋敷南能富とのあひの …」(屋敷地境目につき)	寛永14年6月	観音寺 勢秀	—	—	1	—
24	13-3		「観音寺門前五人役之処…」(松 梅院入足役加増につき)	—	庄兵衛ほか2名	観音寺	状	1	裏書「明暦二年申三月 廿三日」などの記述有 り
24	13-4		「観音寺門前先年家敷…」(松梅 院入足役につき)	—	—	—	状	1	後欠、下書
24	14		「右先達而奉願御免…」(観音開 帳拜見御免につき)	—	—	—	状	1	断簡
24	15	[書簡]	「先達日快晴…」(寄付物承引、 野々村へは不参などにつき)	閏月5日	楽音主人	東向御判事	状	1	—
24	16		「一、村中少々高持出作…」(百 姓法度条々)	寛永12年2月1日	—	—	状	1	—
24	17		「一、百卅文…」(銭高など書 上)	巳9月	奈良屋	東向観音寺	綴	1	—
24	18		「西院村支配」	—	—	—	状	1	—
24	19		「西院村 御蔵附納…」	—	—	—	状	1	—

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
24	20	口上	「権現様御朱印黒印虫喰…」	天明7年9月	観音寺	—	状	1	
24	21	西院知行支配	「一、武奴五分 菓子…」	承応元年	—	—	状	1	
24	22	卯ノ皆済さん用覚	(借銀残銀収借替のため)	卯8月3日	観音寺最源	照春普籠	状	1	
24	23	参拜次第	(延宝8年～享保元年の代替参府書上)	—	—	—	状	1	
24	24	「書簡」	「一筆啓上仕候…」(縁組済のため祝儀進上につき)	2月6日	池田丹波守政晴	大江参河守ほか2名	状	1	
24	25	「包紙」	「未入旦那不許拜見者也」	—	—	—	状	1	紙背利用
24	26	覚	「一、別宅ニ差置候刀帯…」(当寺別宅に帯刃の家来なきにつき)	宝永4年10月26日	北野観音寺住持 信啓	御奉行	状	1	端裏有り
24	27-1		「城州葛野郡西之京…」(観音寺西ノ京村分石高書上)	延宝9年7月29日	西之京観音寺分庄や善齊	—	状	1	紙背利用
24	27-2		「城州葛野郡…」(観音寺西ノ京村分石高書上)	延宝9年7月29日	北野観音寺分庄屋 善齊	—	状	1	27-1と同文
24	27-3	延宝九年国廻之衆名付		辛酉7月29日	—	—	状	1	端裏有り
24	28	「くくりひも」		—	—	—	ひも	1	
24	29-1	「包紙」	「十二月廿二日東役所出又…」	12月22日	北野東向観音寺	—	状	1	
24	29-2		「廻状ニ而申触候…」(御土居竹子番油断なき旨)	4月15日	角倉市丞ほか1名	町代ほか	状	1	
24	30		(白紙・防虫剤入れ)	—	—	—	状	1	

【図31】

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	1-0	「くくりひも」		—	—	—	ひも	1	
31	1-1	覚	「一、巻貫七百拾五文…」(貸付金書上)	巳3月	—	—	状	1	端裏「菩提寺」
31	1-2	覚	「一、三拾五匁」(米代銀書上)	4月6日	角や喜兵衛	観音寺縁御知事	状	1	

【図31】

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	1-3	覚	「一、黒米弔石…」(米代銀書上)	—	—	—	状	1	
31	1-4		「一、九百四十八文…」(年貢代など書上)	—	—	—	状	1	のりはがれ、前欠
31	1-5		「一、壹ノ文…」(味噌桶代など書上)	—	—	—	状	1	
31	1-6	覚	「一、上木參拾駄…」(木受私書上)	11月22日	喜兵衛	観音寺御納所	状	1	端裏あり、のりはがれ
31	1-7		「一、廿八匁五分…」(竹取人足賃など書上)	2月朔日	角や喜兵衛	観音寺御役者中	状	1	
31	1-8	竹覚	「上 九拾三束…」(竹駄数書上)	—	—	—	状	1	
31	1-9		「三貫六百文…」(竹取人足ほか書上)	—	—	—	状	1	裏書きあり、前欠
31	2-0-1	[包紙]		—	泉信太夫	観音寺	状	1	外側
31	2-0-2	[包紙]		—	堤長兵衛	観音寺	状	1	
31	2-1	[書簡]	「一筆致啓上候…」(祝儀、土産を添えて進上につき)	9月	堤長兵衛成■(虫損)	観音寺	状	1	
31	3		「安永五甲年…」(供養料請取明細)	安永5年10月	泉涌寺勘定所	北野観音寺	横	1	
31	4		「京 泉涌寺末寺…」(観音寺所持黒印・朱印状書上)	天明7年	観音寺・泉涌寺大定	—	状	1	
31	5-0	[包紙] 康安寺住職一 作書面		卯7月6日	—	—	状	1	
31	5-1-0	[包紙] 上		—	観樂寺	—	状	1	
31	5-1-1	奉願康安寺後住之事	(霊冊を康安寺後住願いにつき)	文化4年6月20日	野々中村観樂寺祐鏡	京都北野観音寺御役者 衆中	状	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	5-2	口上	「一簡奉啓上…」(康安寺後住につき)	—	観楽寺栞鏡	観音寺御役者衆中	状	1	
31	5-3	口上	「別紙ニ而申上候…」(仙山へお勤名につき)	—	—	—	状	1	
31	5-4		「康安寺無住ニ付…」(康安寺後住、弓削大聖院靈瑞へ許答につき)	—	—	—	状	1	
31	6-0	「包紙」音林寺良賢暮無之候間是迄共御見合ニ可成事ニ御座候哉と差上申候		—	—	—	状	1	
31	6-1	「包紙」用添書		7月26日	観楽寺栞鏡	京北野観音寺役者	状	1	
31	6-2	「書簡」	「以手紙申上候…」(康安寺来る九日御対面につき)	卯8月2日	大谷四ヶ村役人	北野観音寺	状	1	
31	6-3		「丹州北大谷四ヶ村…」(村役人書上)	—	—	—	状	1	
31	6-4	口上	「残暑之御益御法…」(月見首尾よく相済むにつき)	—	野々中村観楽寺栞鏡	京都北野観音寺御役者衆中	状	1	
31	7-0	「包紙」		—	泉涌寺・新善光寺様在江戸権行事 岡田司	—	状	1	
31	7-1	「書簡」	「改年之御慶賀…」(白銀一封進呈につき)	正月3日	岡田司微然	新善光寺	状	1	
31	7-2	口演	「明後五日巳刻…」(召集につき)	11月3日	東向観音寺	梅深坊ほか8名	状	1	
31	8-0	「包紙」回章		—	—	—	状	1	
31	8-1	口演	「明後五日巳ノ刻…」(召集につき)	11月2日	東向観音寺	梅深坊ほか8名	状	1	
31	9		「東向観音寺様…」(金子書上綴)	—	—	—	綴	1	
31	10	口上	(仏事滞り無く済み、お礼につき)	—	—	—	状	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	11	権現様御黒印写		元和元年7月27日	—	北野観音寺	状	1	
31	12-0-1	[包紙]		—	京北野観音寺役者正受庵	丹州園部下木崎村万福寺文室・同村庄屋・年寄	状	1	
31	12-0-2	[挟板]		—	本山役者 正受庵	—	木板	1	
31	12-0-3	[包紙] 回章		—	本山役者	—	状	1	12-1に綴合
31	12-1	[書簡]	「[以手紙得御意候…](観音寺院主の泉涌寺住持紫衣勅許につき)」	5月27日	本山北野観音寺役者正受庵	丹州園部下木崎村万福寺文室ほか4ヶ寺・同村庄屋・年寄・氏子中	綴	1	
31	13-0	[包紙]「御代々御朱印頂戴仕目録」		—	泉涌寺末寺 京北野観音寺	—	状	1	
31	13-1		「京北野観音寺知行高…」(朱印状目録)	嘉永7年	京北野観音寺	—	状	1	
31	13-2		「第壹種 文明十八年以前…」(文化財調査の対象書上)	(明治か)	—	—	状	1	
31	14	[書簡]	「拜啓齋魯之御ニ…」(金子拜借につき)	7月18日	沙弥 智範	—	状	1	
31	15	条々	「一、僧呂之衣…」(朱印替の御、本寺より諸末寺へ触れるにつき)	巳8月15日	泉涌寺住持 明岳	北野観音寺	状	1	
31	16	[包紙]		—	藤岡	果海古老	状	1	
31	17	追脩	「老師遷逝仲秋天…」(漢詩)	—	榎風園	—	状	1	
31	18		「此書付三通之御尊靈…」(御追福の尊靈・日付書上)	元禄16年3月13日	—	—	状	1	
31	19		「山城国西院内拾九斗九升事…」(朱印状写)	天正19年9月13日	—	観音寺	状	1	
31	20	右黒印絵図之通当寺地 二立米候建物及大破候 二付黄引即絵図之通普 請仕度段去戊十月来 (平出) 御役所江奉願		安永8年9月	観音寺役者僧鑑・役者 恵玉	—	状	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
		候処場所御身分之上願 之通被(次字)被仰付 難有奉存候然処少々不 勝手之儀御座候二付内 住居等相改此度重而奉 願候覚							
31	21	[書簡]	「一筆啓上致候…」(折袴願につ き)	9月12日	泉館太夫		状	1	
31	22		「さくらいや法名・山形屋法名 …」(法名書上)	喜秋		ひがし向観音寺ニテ甚 兵衛	状	2	包紙入り
31	23		「大畧難凌…」(帰寺につき)	9月		観音寺	状	1	
31	24	地子之事		丑12月22日	年寄清七	観音寺縁御知事中	状	1	
31	25		「木村為三郎」(人名控え)				状	1	くくり紐あり
31	26		(白紙)				状	1	
31	27	乍恐奉願居作御訴訟之事	(雛形、後欠)				状	1	
31	28	() 領之覚	「一、高十石九斗余 西院村 …」(朱印地書上)	享保元年12月	北野東向観音寺通義	御奉行様	状	1	
31	29	[書簡]	「御切紙通り…」(金子受取につ き)		豊田	長老・次兵衛・役者	状	1	
31	30		「山城国葛野郡…」(家綱朱印状 写)	寛文5年7月11日			状	1	(端裏書)「蔵有院様御 朱印写」
31	31		「山城国葛野郡西院…」(家治朱 印状写)	宝暦12年8月11日			状	1	(端裏書)「俊明院様御 朱印写」
31	32		「山城国葛野郡西院…」(家慶朱 印状写)	天保10年9月11日			状	1	(端裏書)「慎徳院様御 朱印写」
31	33		「山城国西院之内…」(家康黒印 状写)	元和元年7月27日			状	1	(端裏書)「権現様御黒 印写」
31	34		「山城国葛野郡西院…」(家斉朱 印状写)	天明8年9月11日			状	1	(端裏書)「大御所様御 朱印写」
31	35		「山城国葛野郡西院…」(家重朱 印状写)	延享4年8月11日			状	1	(端裏書)「尊信院様御 朱印写」

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	36		「寺領山城国西院之内…」(秀忠朱印状写)	元和3年7月21日	—	—	状	1	(端裏書)「台徳院様御朱印写」
31	37		「歳末為御祝儀…」(南鏡一片の御札につき)	3月26日	佐々木太宰大監	観音寺	状	1	
31	38		(観音寺建物配置図)	—	—	—	鋪	1	
31	39	[書簡]	「以手紙啓上…」(来る晦日聖廟参詣につき)	9月27日	一条殿御用場	観音寺御役者	状	1	
31	40	覚	「一、七百廿八文…」(金高書上)	8月17日	いせや義直	観音寺	状	1	
31	41		「右之通為指上候…」(歳末御祝として)	2月9日	—	—	状	1	
31	42	奉願口上書	(当年水損により年貢の義につき)	明和5年12月	西院村百姓惣代弥五郎ほか5名	観音寺様御役人	状	1	
31	43	寺領之覚		丑8月17日	山城国葛野郡北野律宗泉涌寺末寺観音寺	—	状	1	
31	44	寺領之覚	(西京村高五石分朱印状紛失により寺領の件につき)	天明7年	京泉涌寺末寺北野観音寺	御奉行所	状	1	
31	45	乍恐奉願造作御詠訟之事		宝永6年8月3日	北野東向詠訟人観音寺	御奉行様	状	2	裏書「土蔵造作願留」
31	46	[絵図]上	(境内指図)	寛政元年3月12日	観音寺役者学音	—	鋪	1	貼紙(図)あり
31	47	[絵図]	(境内指図)	—	—	—	鋪	1	貼紙2枚あり
31	48	普請御願		安永7年10月	観音寺住持僧録ほか1名	御奉行所	状	1	端裏「控」
31	49		「東山泉涌寺末寺…」(普請願書)	正徳2年2月12日	大丁理左衛門ほか1名	—	状	1	端裏に中井主水奥印あり
31	50	追而奉願造作之事		宝暦9年6月	観音寺住持忍随ほか1名	御奉行所	状	1	
31	51	普請御願		天明6年8月	観音寺戒龍ほか1名	御奉行所	状	1	
31	52		「…御役所様御裁断…」(一件落着により集会下されたきにつき)	西6月	—	—	状	1	前欠

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘要	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	53	口上	「一、上米九拾壹…」	—	—	—	状	1	後欠
31	54	口上	(観音開帳執行につき伺) 「病後いまだはきゝ、致不申…」	—	観音寺信啓	—	状	1	—
31	55	【書簡】	「一、七斗壹升壹合…」(町中納)	7月12日	年寄清次郎	—	状	1	前欠
31	56	覚	「一、九百文 十七日より…」 (番茶など代金書上)	—	—	—	状	1	—
31	57	覚	「一、廿三歳 男ノ年男…」(年男・年女年齢)	戊12月	入江雅楽頭	北野東向観音寺	状	1	—
31	58	覚	「一、廿三歳 男ノ年男…」(年男・年女年齢)	—	—	—	状	1	—
31	59-1	【絵図】	(観音寺境内指図)	—	—	—	鋪	1	—
31	59-2	【絵図】	(観音寺境内指図)	—	—	—	鋪	1	—
31	60	【内海 息空宗体禪定門】(法名書上)	—	—	内海	—	状	1	—
31	61	乍恐奉願造作御所訟之事	(鐘撞堂普請願)	元禄12年9月21日	観音寺	御奉行	状	2	—
31	62	口演	「来ル十七日恒例之法会二付…」	(弘化4年) 6月15日	東向観音寺	松深坊ほか8名	状	1	—
31	63	【書簡】	「以手紙啓上仕候…」(改年慶賀の儀につき)	—	—	—	状	1	—
31	64	【書簡】	「訴訟有之…」(百姓召し連れ罷り出づべきにつき)	6月15日	備前	北野観音寺	状	1	折紙
31	65-0	【包紙】御土蔵積り書	—	—	左官与兵衛	—	状	1	—
31	65-1	積り書	(土蔵2ヶ所見積りにつき)	午7月晦日	左官与兵衛	観音寺	状	1	—
31	66	覚	「一、金三百疋…」(六会目掛銀受取につき)	午10月17日	御寺御所御勘定所	新善光寺御新所	状	1	—
31	67	【一、足鞠大事…】(呪法秘伝三か条)	—	—	—	—	状	1	—

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘要	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	68-1	[絵図]	(本堂ほか建物間取り図)	—	—	—	鋪	1	土蔵3つあり
31	68-2	[絵図]	(本堂ほか建物間取り図)	—	—	—	鋪	1	
31	68-3	[絵図]	(本堂ほか建物間取り図)	—	—	—	鋪	1	小塔などあり
31	68-4	[絵図]	(境内境界図)	—	—	—	鋪	1	
31	68-5	[絵図]	(境内境界図)	—	上京第六区観音寺門前 町持主 東間寛淳	—	鋪	1	
31	69	口述	(例年の折袴料などにつき)	—	—	—	状	1	後欠
31	70	[書簡]	「先加成二而快晴御座候…」(昨日の板木間違いあるにつき)	正月29日	新善光寺	菩提寺主盟	状	1	
31	71		「為歳末御祝儀…」(金50疋下さるにつき)	12月26日	岡本少監物	東向観音寺	状	1	
31	72-1		(受領書綴一括)	午9月	—	観音寺	綴	7	
31	72-2	覚	(東御門分金高など書上)	—	—	—	状	1	後欠
31	73		(受領書綴一括)	丑9月	—	観音寺	綴	6	
31	74	[書簡]	「…弥折から…」	3月	藤屋	長老	状	1	前欠
31	75	[書簡] 口上	(放生くよう金2朱差上げにつき)	—	—	—	状	1	函31-74の前部
31	76	[書簡]	「弥御安康珍重…」(父病気の処、卒去につき)	6月3日	村田刑部丞	観音寺長老	状	1	
31	77-0	[包紙]		—	小堀勝太郎	観音寺	状	1	
31	77-1	[書簡]	「年始之内御嘉例…」(年始挨拶につき)	正月	小堀勝太郎	観音寺	状	1	
31	78	[書簡] 口上	(桶山家へ披露に及ぶにつき)	2月15日	将監	安藤貞	状	1	
31	79	[書簡]	「一筆啓上致候…」(御歳大麻進上につき)	9月21日	泉館大夫舎善	観音寺	状	1	
31	80	[書簡]	「昨日平井公…」(16日中当社へ出品お廻し下されたきにつき)	7月15日	北野神社社務所	観音寺寺務所	状	1	
31	81	[書簡]	「風暦更新之靈祥…」(折袴札・供物など今度披露につき)	(明治)22年1月15日	成興寺兼務 上田有浄	九条御殿 御家扶中	状	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘要	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	82	[書簡]	「今日も残熱甚候…」(善能寺今度端世お薦めにつき)	7月23日	—	—	状	1	後欠
31	83-0	[包紙]	—	—	村田式部大丞	泉海長老	状	1	
31	83-1	[書簡]	「此後は打絶御座遣…」(御講一件講議につき)	—	式部大丞	長老	状	1	
31	84		「正月廿五日より…」(日曜日数・賃銭書上)	未3月	日雇 友七	—	状	1	
31	85	[書簡]	「一筆致啓上候…」(折禱執行・大麻進上につき)	9月21日	泉館太夫舎善	観音寺	状	1	
31	86	[書簡]	「為中元御祝儀…」	7月8日	佐々木大宰大監	東向観音寺	状	1	
31	87	[書簡]	「…懐厚奉存候…」(断簡)	—	神岡玄蕃助	新善光寺	状	1	
31	88-0	[包紙]	—	—	堤長兵衛	北野観音寺	状	1	
31	88-1	[書簡]	「一筆致啓上候仍嘉例…」(折禱・大麻御祝儀進上につき)	9月	堤長兵衛	北野観音寺	状	1	
31	89-0	[包紙]	—	—	小堀勝太郎	北野観音寺	状	1	
31	89-1	[書簡]	「年始之為御嘉詞御入来…」	正月	小堀勝太郎	北野観音寺	状	1	
31	90	[書簡]	「為中元之御祝儀…」(金50DE)	7月11日	保田刑部権大輔	観音寺	状	1	
31	91	[書簡]	「寒冷之節ニ御座候…」(御道具拝借仰せ付けられにつき)	10月7日	重兵衛	新善光寺御院中	状	1	
31	92	[書簡]	「時下殊之外秋冷…」(米お渡しの儀につき)	—	新善光寺役者	上林苑役者中	状	1	
31	93	口述	(御見舞進呈仕りたきにつき)	11月3日	来定院	北野観音寺 尊靈座下	状	1	
31	94		「一、銀入拾六匁…」(納金高書上か)	午8月15日	—	—	状	1	前欠、函31-72-2の 続き
31	95		「厨子入本尊三尺…」(仏像・体寸など書上)	—	—	—	状	1	
31	96	口状	(福寺後に関する口書)	2月27日	観音寺役僧	新善光寺役方中	状	1	
31	97		「覚 正月廿四日…」(金高書上綴)	未3月	—	—	綴	4	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘要	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	98	六日北野持参品		—	—	—	状	1	
31	99	覚	(6月9日分高張はりかえ賃など書上)	6月26日	奈良屋吉兵衛	観音寺役人中	状	1	
31	100		「一、米會朝…」(米倉石垣崩れ落ち、直しにつき披露書)	2月16日	—	—	状	1	
31	101	口上	(27日お出でにつき)	—	村田	観音寺	状	1	
31	102	覚	(1貫28文、焼まんちう代)	6月6日	いせや義直	観音寺	状	1	
31	103		「此後品御そまつの…」(供養として品渡すにつき)	—	川嶋・吉川	長老	状	1	
31	104		「…御祝儀性徴之至ニ…」(祝儀下さるにつき)	1日	村田式部大丞	—	状	1	虫損
31	105	[書簡]	「寒中なからいかに…」(放生供養につき)	—	—	—	状	1	
31	106-1	[書簡]	(委細御入れなされ目出度につき)	—	—	—	状	1	後欠
31	106-2	[書簡]	「極月廿八日…」	極月28日	又江雅楽頭	北野観音寺	状	1	前欠
31	107	覚	「五月十八日…」(炭代など書上)	7月10日	森徳	観音寺	状	1	
31	108	口上書	「先達而度々奉甲上候…」(用水四条川、壬生村より妨げにつき)	—	西院村役人	—	状	1	
31	109		「一、三百三拾文…」(金高書上)	—	村田	観音寺	状	1	反故紙
31	110		「十八日 御膳料…」(御膳料書上)	—	丹ごや内せん	—	状	1	
31	111	覚	「廿六日より廿一日迄…」(賽銭書上)	—	—	—	状	1	
31	112	口代	「来り十六日…」(積金21回目催しにつき、出席されたき旨)	子2月	雲龍院役人	世話方講中	状	1	
31	113		「速證院法橋…」(僧侶名書上)	—	—	—	状	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
31	114	覚	「一、地米壹石二付…」(米師書留)	7月12日	—	—	状	1	
31	115	観音様御膳料	—	—	菓子屋喜兵衛	—	状	1	
31	116	[書簡]	「東向観音寺様」(断簡)	—	—	—	状	1	前欠
31	117	覚	「一、銀式十八匁…」(銀高書上)	—	—	—	状	1	
31	118	覚	「拾式匁也 上竹…」(品代書上)	—	—	—	状	1	後欠
31	119	[短冊]	「初軒や松に日高き知恩院」	—	—	—	状	1	
31	120	[扁額]	「無論宝」	—	—	—	状	1	
31	121	[書簡]	「寒気之筋愈…」(削り木・さつま芋など進上につき)	11月14日	新善光寺役者	上林苑御役者中	状	1	
31	122	[書簡]	—	林鋪16日	繁富山役者	上林苑観音寺御役位御中	状	1	

【図32】

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
(函32-1~12まで聖教のため、聖教編の目録に掲載予定)									
32	13	御仏間宝形造り内女関御玄関御台所廊下共木寄積り書	—	天保3年5月	—	—	横	1	
32	14-0	再建惣絵図	—	—	観音寺	—	袋	1	
32	14-1	覚	(諸人足貫錢書上)	10月26日	—	—	状	1	
32	14-2	[書簡]	「向寒之御益御安康…」(絵図面拙者へ仰せ付けられたきにつき)	10月17日	大宮 藤井嘉兵衛	東向観音寺	状	1	
32	14-3		「壘 九拾四帖…」(建築部材数・簡略絵図面)	—	—	—	状	1	
32	14-4	[絵図]	「東正面二三間四方…」(仏間宝形造り正面図)	—	—	—	鋪	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘要	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
32	14-5	[絵図] 原表題	(庫裏見取図か)	—	—	—	鋪	1	
32	14-6	[絵図] 御殿下絵図		—	—	—	鋪	1	
32	14-7	大工伊之助様御木寄帳		天保2年2月	—	—	横	1	
32	14-8	[絵図]	(仏間裏正面図か)	—	—	—	鋪	1	
32	14-9	仮建物普請御願		文政10年8月	北野東向観音寺	—	竖	1	
32	14-10	[絵図] 庫裏裏 栢行 五間梁9行五間拾分一 図		—	—	—	鋪	1	
32	14-11	御仏間庫裏・御玄関内 玄関廊下共木寄帳		天保3年5月	まつ屋新兵衛	東向観音寺御講中	横	1	
32	14-12	[絵図]	(庫裏見取図)	—	—	—	鋪	1	他の図面と配置異なる
32	14-13	[絵図]	(庫裏正面図)	—	—	—	鋪	1	様々な建築様式を一枚 に描く
32	15-0	境内地面絵図		—	上林苑観音寺	—	袋	1	
32	15-1	[絵図]	(屋敷絵図面)	—	—	—	鋪	1	
32	15-2	北野観音寺門前家数	(17軒)	寛文9年5月18日	観音寺知事正準	五十嵐四郎兵衛	状	1	
32	15-3	[絵図]	(庫裏絵図面)	—	—	—	鋪	1	
32	15-4	[絵図]	(庫裏絵図面)	—	—	—	鋪	1	間数の付箋付
32	15-5	[絵図]	(不明、印鑑付)	—	—	—	鋪	1	
32	15-6	[絵図]	(元和六年境内・門前町絵図面 写)	元和6年5月17日	—	—	鋪	1	函32-15-7の写し
32	15-7	[絵図]	(元和六年境内・門前町絵図 面)	元和6年5月17日	—	—	鋪	1	門前住人の名前あり
32	15-8	[絵図]	(元和六年境内・門前町絵図 面)	元和6年5月17日	—	—	鋪	1	門前住人の名前なし
32	15-9		「かい、川北之分にし…」(門前な ど町人名前書上)	—	—	—	状	1	
32	15-10	[絵図]	(庫裏見取図面)	—	—	—	鋪	1	

函	No	原表題 [内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
32	15-11	[絵図] 原表題 [内容表題]	(境内・門前絵図面)	万治3年9月12日	当山泉涌之末寺北野観音寺	—	鋪	1	天正11年門前開発の記載あり
32	16		「明治廿一年六月…」(受講日記断簡)	—	—	—	状	31	竖冊断簡
32	17		「明治廿二年九月廿八日…」(受講日記断簡)	—	—	—	状	52	竖冊断簡
32	18	授業及日課簿	(綴断簡一括)	明治22年1月	UENURA	—	状		
32	19	栽培経済問答新誌 第一号		明治14年12月20日	東京神田区柴町二十番地 曳尾社	—	雑誌	1	
32	20	立世阿毘曇論		慶応2年	京六条下数珠屋町丁子屋九郎右衛門	—	竖	1	
32	21		「明治廿三年五月四日…」(受講日記断簡一括)	—	—	—	状		
32	22	達	(勤惰試験修行につき)	明治21年9月14日	中小学校幹事	—	竖	1	
32	23		「五相成身…」(聖教か)	嘉永5年4月4日	—	—	竖	1	
32	24	釈教正謬非正弁		—	—	—	竖	1	
32	25	上伸書	(当寺境内には墓地なき旨)	明治18年1月28日	観音寺住職平民 上田 省浄	京都府知事北垣国道殿代理 京都府大書記官 尾越蕃輔	竖	1	
32	26-1		(転住・兼務願綴)	—	—	—	綴	1	函32-26-2と同一内容を含む
32	26-2	転住職願		明治24年10月28日	戒光寺関係人泉涌寺一山総代 準別格観音寺住職中僧都 北脇良識 ほか9名	真言宗長者大僧正 原 心猛	状	3	竖くずれ
32	26-3		「送り奉ラントノ語ニヨリ」(寺宝・境内地等書上)	明治28年7月	観音寺住職 田村智範	—	状	3	竖くずれ
32	26-4		「送り奉ラントノ語ニヨリ」(寺宝・境内地等書上)	—	観音寺住職 田村智範	—	状	3	竖くずれ、32-26-3と同一内容
32	26-5		「然ルニ天保年中…」(堂宇など書上)	—	—	—	状	1	前欠

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
32	27	土地貸借契約証書		大正2年1月10日	貸主 東向観音寺	—	竖	1	
32	28		(泉涌寺本別院塔中明細)	—	—	—	竖	1	表紙に控を預る旨あり
32	29	貴社境内ヨリ此寺門前 へテ敷石新設仕度ニ付 御願		明治26年7月	観音寺住職 田村智範 ほか3名	北野神社社務中	状	1	
32	30		(修復のため有志掲示関係綴)	—	—	—	綴	1	
32	31	堂宇修繕費勸募之請言		—	京都市北野東向観音寺 ・信徒世話方	—	活版	1	
32	32		「第一種…」(観音寺由緒)	—	—	—	状	1	
32	33		(永祥寺合寺・地券など届類 綴)	—	—	—	綴	1	
32	34	普請御願		安永7年11月	武者小路室町東入町 亀尾組大工利兵衛	中井主水御役所	状	1	絵図付
32	35	普請重而御願		—	北野東向観音寺	—	状	1	絵図付
32	36		「一、葵御紋付金灯笼…」(葵紋 付の品書上)	明和6年9月	北野東向観音寺	御奉行所	状	1	
32	37	奉為	(金10片、得成寺殿菩提とし て)	明和6年10月24日	一条殿御内 丹下阿波 介・岡本肥前介	東向観音寺	状	1	
32	38	上京区第六組観音寺門 前町観音寺境内外区别 略図		—	京都府第二部土木課	—	状	1	写
32	39	謹言上	(観音寺及寺領田緒書)	明暦3年5月12日	北野御本地堂観音寺宏 源	御奉行所	状	1	
32	40	覚	(開帳中衣冠等12点拝借につ き)	3月10日	北野観音寺僧經	一条殿 丹下阿波介・ 岡本肥前介	状	1	
32	41		「請定曼荼羅供職衆事…」(出席 僧名書上)	天和2年3月	日行事信啓	阿闍梨孤雲和尚位	状	1	
32	42	奉願口上覚	(御沙汰御用捨願につき)	3月22日	興静親類惣代■三郎 左衛門ほか1名	新善光寺御院主	状	1	
32	43	偽書録	(立川流の伝承など控え)	天和2年	宏源	—	状	1	

函	No	原表題・[内容表題]	内容摘記	作成年代	作成	宛所	形態	数量	備考
32	44	供養作法	(式次第書上)	—	—	—	状	1	後欠
32	45	口達	(講を開催、懸銀・飯料添え返却につき)	午4月18日	一条殿御勘定所	北野観音寺	状	1	
32	46	北野観音寺開基之事	(竹室など書上)	—	—	—	状	1	後欠、端裏書あり、享保4年7月の作成か
32	47	運送請取扣	—	—	—	—	横	1	
32	48		「一、今時釈家之格式大凡…」(泉涌寺山外5ヶ寺を軽んずる旨)	—	—	—	状	1	函32-49草案か
32	49		「就今時之釈氏門之風儀…」(泉涌寺山外5ヶ寺を軽んずる旨)	—	—	—	状	1	
32	50	覚	「一、十二日早朝より…」(日記)	—	—	—	状	1	
32	51		「就今時之釈氏門之風儀…」(泉涌寺山外5ヶ寺を軽んずる旨)	—	—	—	状	1	函32-49草案か
32	52	内々依御尋申進候口上 覚	(泉涌寺法金剛院を不当に除名せる旨につき)	—	—	—	状	1	